

また、入館者の増加とともに防犯対策が緊急の課題となっている。ここ数年、館内で盗難や覗きといった事件が発生し、利用者の安全を確保する責任が増した。改修時に防犯カメラを各階に2台ずつ設置したが、全ての場所が見えるわけではなく、職員による館内見回りを増やしているが、前述のような人手不足の状況のため、警備員の定期的な巡回などが必要である。なお、現在全く行われていない利用者の入館チェックを実施するために、2006年度初めに入館ゲートを設置する。

4) 図書館の地域への開放

(A群: 図書館の地域への開放の状況)

【現状の説明】 本学図書館では女子聖学院短期大学図書館時代の30年以上前から、学外者への図書館開放を行ってきた。18歳以上の学外者に対し、閲覧、貸出(5冊を2週間)、PCの利用、視聴覚資料の視聴(土曜日のみ)など、一部を除いて学生と同等のサービスを提供している。居住地域による制限はなく、卒業生へも同じサービスをしている。

本学が開催する司書講習・学校図書館司書教諭講習、公開講座や生涯学習センターの受講者の多くが受講期間中に図書館を利用する他、聖学院みどり幼稚園の保護者、近隣住民の利用もある。近年の一般利用者(学外者)は、本学図書館のホームページを見て来館することもある。一般利用者の利用者証発行は、更新も含めて毎年160名以上に上る。改修によって入口が1階となったため、館内の様子を外から知ることができ、今後より多くの学外者の利用が期待される。

【点検・評価】 図書館を早い時期から近隣住民など地域に開放してきたことや、公開講座と関連させて受講者に図書館利用を促し、地域に貢献していることは評価できる。

【課題・方策】 一般利用者の貸出には、学生と同様、長期の延滞、あるいは引越しによる連絡先不明などによる返却のトラブルがある。定期的に図書館へ来る習慣のない一般利用者に対し、資料の速やかな却方法を構築したい。また、様々な目的を持つ利用者がそれぞれに快適に利用できるような環境作りに努めることも課題である。

2 学術情報へのアクセス

1) 学術情報の処理・提供システムの整備、国内外の他大学との協力

(B群: 学術情報の処理・提供システムの整備状況、国内外の他大学との協力の状況)

【現状の説明】 (1) 学術情報の処理・提供システムの整備状況

2005年に、図書館システムが更新された。新たなシステムはUNIPROVE/LS(日立公共システム)で、ブラウザタイプである。OSの更新に強く、UNICODEにも対応している。このシステムでは情報の精度が上がり、ドイツ語、フランス語、ハンゲルなどを正

第8章

図書館および図書・電子媒体等

確に表示できるようになった。また検索が容易になり、カウンターでの検索方法に関する単純な質問は減少した。このシステムは大学図書館だけでなく、法人併設の聖学院中学校高等学校、女子聖学院中学校高等学校の図書館にも導入され、法人内の3図書館の資料検索が一度に行えるようになった。

図書館のホームページ上での情報発信の一つとして、「聖学院大学論叢」(年2回発行)の目次が掲載されている。このうち15巻2号(2003年3月)以降は本文も収録・公開している。またこれらの情報は、国立情報学研究所の論文情報ナビゲータ CiNii (サイニイ)にも登録され、学外の利用にも広く提供されている。

(2) 国内外の大学との協力の状況

I L L (図書館間相互協力)では、N I I (国立情報学研究所)を通じて国内外の大学図書館との連携がなされており、2004年度からは料金相殺制度にも参加している。これにより、以前より複写依頼件数の増加傾向が見られる。利用者の要求に応じて海外図書館との現物貸借、紹介状の発行している。

【点検・評価】 図書館システムの変更により、利用者にとって検索が簡単になったことは評価できる。また長期休暇期間中も窓口を閉めることなく I L L を常に受け付け、学外に向けたサービスにも力を入れていることは評価できる。

【課題・方策】 ① 学術情報の処理・提供システムの整備

学術情報の発信では、過去に発表された論文も、電子化と公開の許諾を得て公開していくとともに、論叢に掲載されたもの以外にも発表された研究成果を収集し、収録を進めることが望まれる。それらの研究成果と本学教員の業績一覧、学会や社会での活動を関連させた情報の発信など、学術情報の発信・交流の場としての図書館の役割を考えた活動を行う必要があるだろう。そのためには、機関リポジトリの環境を整備し、学内の研究者へアピールしていかなくてはならない。

また『聖学院大学論叢』についてのみ行われている国立情報学研究所の論文情報ナビゲータ CiNii (サイニイ)への登録を、『総合研究所紀要』についても検討する必要がある。

② 国内外の大学との協力

海外 I L L の現物貸借は返却・送金の方法が国、図書館により様々で、さらに手数料にも幅があるなど課題も多い。今後はそれらに関するノウハウを蓄積し、効率のよい処理を考えていきたい。